

○ 本校の概要

学区内は住宅地と商業地があり、住民は地域に誇りと愛着をもっている。地域に根ざす学校として本校では、自らの指導に責任をもち、児童の力を伸ばすこと、家庭や地域の協力を得て、児童に生きる力を育成することを目指している。平成30・令和元年度大田区の教育研究推進校に指定され、「自ら気づき、考え、伝えようとする児童の育成～ICT機器を活用して～」をテーマに校内研究を行い、日々の授業改善につなげている。国語・社会・算数の3教科で研究授業を行うとともに、授業規律を整えることで児童が安心して学べる環境を作ることができている。生活面では「調布大塚小学校のきまきり」に沿って指導を行い、あいさつや当番活動、たてわり班活動などによって「心の教育」を実践している。併せて、「スクールサポート調布大塚」の協力のもとに、地域・家庭の力を導入し、教育効果を最大化している。

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 生きる未来社会を創造的に育む	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもを育てます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 コミュニケーション能力を育成するためにペア学習や少人数グループの話し合い活動を取り入れた授業を実施する。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3: 80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2: 60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1: 60%未満であった。 4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。 4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	「授業で隣の人やグループの人と話し合うことは学習の役に立ちますか」という問いに対し「役に立つ」と回答した児童の割合	外国語指導員と連絡を取り合い、計画的に外国語の学習に取り組んできた。自分から進んで話すことについては、まだまだ課題が多いため、改善できるような指導を行う。 ICT機器については、校内研究との関りもあり、全教員が活用方法を模索してきた。また、校内でICT研修会を開くなど、教員の自主的な取り組みも見られた。 休み時間を使ったマラソン月間や縄跳び月間など、体力を向上させる取り組みを行っている。また、体育学習時のサーキットトレーニングの導入など、普段から実践することができた。 ペア学習や少人数グループの学習についても、ICT機器と同様に校内研究との関連で、それぞれの学級が話し合い活動を取り入れている。今後も同様の実践を重ねたい。	・ICT機器活用、国際交流は将来にわたる人との接し方の学びとなる。 ・体力の向上は学習意欲、忍耐力の向上につながる。 ・自ら発言できる人を目指してほしい。 ・時代に対応し、将来子供たちに必要であろうことをにらんでの取組がされている。 ・コミュニケーション能力向上のため、人との意見交換は大切である。 ・体力向上への工夫と努力が見られること、更なる改善及び実践への試みを評価する。 ・研究発表会は素晴らしい。児童に変化を与え自信をもって発表する姿に感動した。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 学習規律(授業中、学習用具、挨拶等)を徹底し、維持している。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。 4: 学期に2~3回知らせた。 3: 学期毎に知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。 4: 対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3: 80%以上の教員が働きかけた。 2: 60%以上の教員が働きかけた。 1: 60%以下の教員が働きかけた。 4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	「授業がよくわかりますか」という問いに対して「よく分かる」と回答した児童の割合	学習カルテについては、対象となる4~6年で記入させている。引き続き実施する。 ステップ学習チェックシートについては、毎学期末に通知表と一緒に保護者に知らせている。 算数補習については、算数を苦手とする児童に声をかけ、参加を促している。引き続き声をかけていく。 授業改善推進プランについては、大田区学習状況調査の結果をもとに、各教科で分析し検討し授業改善に役立っていくようにした。 校内研究の取り組みの一環として、学習規律の徹底は意識してきた。現状、声のものさし、「はい・たつ・です」、学習用具のしまい方など、校内で規律の徹底ができています。引き続き指導を継続する。	・子供であっても自己を評価し、判断する力をつけてほしい。 ・一人一人を見て指導している。 ・研究発表会では、来校者が子供たちの落ち着いた様子に感心していた。 ・「授業がよくわかる」と回答しなかった児童について、ICT機器を活用した授業がわかりにくく感じていた児童もいるのではと思う。子どもがどこで躓いているのかを見直し、「授業がわかる喜び」に重点を置いた授業改善も学習規律の徹底と同時に必要なのではと感じる。 ・成果指標の「授業がよくわかりますか」という発問は、一斉授業がベースにあるような感じがする。学校がめざす課題解決型授業の推進が図れるような発問が望ましいのではないかと。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培います。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国・都及び区別の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。 4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。 4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3: 必要な事案に対しておおよそ会議を実施した。 2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	「学校が楽しいですか」という問いに対して「楽しい」と回答した児童の割合	昨年度から共通取組として、「言葉・礼儀・あいさつ」に重点を置いている。あいさつ運動や日々の週目標等で意識を高めるようにしている。 道徳教育担当教員による校内研修を実施し、道徳教育地区公開講座時の講演会参加等を行っている。昨今のSNS問題についても計画的に指導し、情報モラル教育についても取り組んでおり、資料の配布や学習内容の確認等、保護者の意識も高めている。 学校生活調査やいじめアンケートなどを学期に1回以上実施し、結果に応じて個別面談を行い、児童理解に努めている。 また、いじめや問題行動、不登校、虐待等に関わるケース会議を随時行い、未然防止、早期対応を心掛けた。保護者や外部機関との連携も密に行うよう取り組んでおり、これらの情報を、生活指導委員会をはじめとして、情報共有を図っており、教職員が一丸となって対応できるような組織作りをしている。 縦割り班活動について計画日と実行日を設定し、これまでの回数を2倍にし、充実を図った。	・自然に大人たちに接し、何でも相談できる関係性が築ければよいと思う。 ・たてわり班活動は学年を超えて学ぶものがありえることも多い。 ・学校に行くことと笑顔で挨拶をしてくれる児童がたくさんいる。 ・『学校が楽しい』児童が70%以上。あいさつ、SNSの取り扱い、いじめについてなど、生活指導全般にわたる熱心な取り組みが成果をあげている。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心、運動習慣の定着による体力の向上など、わたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 体力向上のため、持久走、なわとび、サーキットトレーニングに取り組む。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。 4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。 4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。 4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	「体を動かすことが好きですか」という問いに対して「好き」と回答した児童の割合	年2回、「早寝・早起き・朝ごはん」月間に取り組んだ。資料配布や朝会での呼びかけ、カードを使用した記録や振り返り等、家庭にも意識を高めてもらえるようにした。 来賓士が、月1回程度は、季節の食材や世界の食べ物、給食の歴史などを取り入れた献立を計画し、当日は放送で紹介した。畜産学習では、高学年で農業・水産業、畜産等の学習を行った。その他に、職人による和菓子づくり体験、大豆を豆から栽培し、みそづくりをするなどしている。 体育朝会を編を使った運動例を提示したり、体育の授業内でサーキットトレーニングや体幹トレーニングを行ったりした。	・家庭での食育がきちんと行われれば体も自ずから動くようになると思う。 ・マラソン、なわとびなど、休み時間も使い体力向上に取り組んでもらいたい。 ・教員の長時間労働を含め保護者の方々の様々な意見に対応しなければならぬ学校の大変さがあった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」月間による家庭との連携、来賓士の給食献立での工夫は児童の食への関心を高めていると感じる。 ・食と体力向上のバランスがとれた取組がよい。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 校内研究の実施、校内研究テーマを受けた各教員による校内公開授業、OJT研修を充実させて教員の授業力向上を目指す。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。 4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 月1回以上行った。 3: 学期に2~3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。 4: 月1回以上行った。 3: 学期に2~3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	「子どもたちにとって分かりやすい授業をしていたか」という問いに対して「よくあてはまる」と回答した保護者の割合(学校公開アンケート)	学校公開の授業評価(アンケート)は、全教員で回収している。十分ではなかった部分については、改善するよう取り組むことができた。 学校組織のなかで、教諭と主任教諭又は主幹教諭が学年を組む、学級経営について指導や助言を行うOJTを、日々行なった。また、ICT研修などの自主的な研修も実施した。今後日々のOJTを積み重ねていきたい。 研究発表会などは、分担して参加をし、伝達研修などで研修成果を周知している。それぞれの教員が、それを参考に授業改善に取り組むことができています。 特別支援の校内委員会を毎月一度実施した。今後も引き続き行っていく。 本年度は「大田区教育委員会教育研究推進校」としての「二年次研究発表会」があり、授業研究、授業公開などを数多く行った。来年度も引き続き研究をすすめ、授業力の向上につなげたい。	・学校公開では教員、児童がのびのびと対応していたので好感が持てた。 ・安心、安全のためにできることは範囲が広く、重く大変なことと感じている。 ・学校教育、家庭教育の違いを考慮してほしいという保護者の意見への答え方が難しい。どちらも教育する内容は学校でも家庭でも同じでなければならないと思う。 ・業務が多い中、研究発表、OJTの活用など労を惜しまない姿勢に感謝する。 ・『分かりやすい授業をしているか』について多くの保護者が高く評価しているのに、『授業がよくわかる』児童の割合がそれに見合ったものではないことに、保護者の意識と児童の思いのギャップを感じる。研究授業に加え、若手とベテランが日々の授業を互いに見る機会を持つてよいのではないかと。
プラン6 なつてととも、家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の愛着等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 PTAと連携し、PTA本部をはじめ、各部やPTAボランティアの活動と協働し、保護者と連携した特色ある教育活動を推進する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2~3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。 4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。 4: 学期に2~3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。 4: 学期に2~3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	「学校からのたより(学校便り、学年便り、ホームページ等)は分かりやすい」という評価項目で、「はい」と回答した保護者の割合	児童の活動状況はホームページで月に6~10回程度更新した。給食のメニューは毎日更新している。今後も継続していく。 地域教育連絡協議会では、行事予定の紹介、学校公開の様子を見ていただくなどを行っている。保護者アンケートや全国学力学習状況調査の結果等をお知らせし、適正な評価が受けられるようにした。 学校支援地域本部については、スクールサポーターとしてゲストティーチャー、夏休み子ども会、校外学習支援等、教育活動に深くかかわっていただいた。また保護者による、読み聞かせやおはなし会等で児童の学習の幅が広がり、学校の運営の推進力となった。	・校長はじめ教職員の積極的な独自色が出ており「さすが調布大塚小学校」という声が聴けるほどの素敵な学校を目指してほしい。 ・PTA活動では地域の活動に比べると、見直しをしなければならぬことが多い。 ・保護者からのどのような意見に対しても、学校は説明責任をきちんと果たしている。 ・心無い意見、過度な要求に、教員のモチベーションが下がらないかと心配。	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。

※プラン1の第1、3項目およびプラン4のすべての項目については専科、サポートルーム教員は評価人数に入れない。